



Nara
Women's
University

Today

編集：奈良女子大学広報企画室

第12号

2009.6.1

奈良女子大学は 2009 年 5 月 1 日に創立百周年を迎えました！！

学長の挨拶

本年4月1日付で奈良女子大学第十代学長を拝命致しました。大変な重責であることを日々実感しておりますが、皆様方のご支援をいただき、職務を全うする所存でありますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、本年は、前身の奈良女子高等師範学校から数えて創立百周年、また、奈良女子大学として六十周年の節目の年に当たります。昨年来、百周年記念行事として様々なプレイベントを実施し、本学百歳の誕生日に向けて気運を盛り上げて参りましたが、本年はいよいよメインイベントを迎え、5月1日に佐保会「ホーム・カミングデー」、5月2日に「創立百周年を祝う会」、そして5月16日に「創立百周年記念式典・祝賀会」といった行事が連続して盛大に行われました。その時の様子は、本号の記事や、大学または佐保会のホームページに掲載されておりますのでご覧ください。

本学百年のあゆみは、女性が高等教育を受けられない時代に始まりましたが、現在の世の中は、男女共同参画社会の実現に向けて着実に動いております。これは、百年前、本学の先輩達为实现を強く願っていた社会です。こういう社会背景、時代背景の中で、百年後の本学の姿を想像してみましょう。いろいろ想像はできますが、我々はどこまで未来を現実的に想像できるのでしょうか？50年先、20年先、10年先、5年先、・・・？

国立大学は、2004年に一斉に法人化され、6年ごとの中期目標を立て、それを達成することが求められています。今年はその第一期目の最後の年であり、来年度から始まる第二期目の中期目標を策定する年でもあります。第二期目の期間の外的な状況次第では第三期目には大きな変動があるかも知れません。しかし、本学は、小規模ながらも教育、研究、対外連携などを通して、国立大学としての基本的な役割をしっかりと果たし、本学に集う学生・教職員や、大学の基盤を支えてくださっている皆様の期待に応えて参りたいと考えています。



学長 野口誠之

◆創立百周年を祝う会（大学講堂）

5月2日、「創立百周年を祝う会」を本学講堂にて開催しました。本学卒業生や在学学生、教職員のみならず、近隣住民の方々や海外からの出席者もあり、当日は総勢約1,000名の方々にご参加頂きました。祝う会では、本学同窓会「佐保会」が作成したDVD「映像で見る母校百年史」の上映に続き、学長式辞、佐保会理事長の祝辞、各学部を代表する学生らによるリリーススピーチが行われました。大学への想いや将来への希望を、思い思いに語る学生の姿は、大学の明るい未来を予感させるものでした。その後、シンポジウム「高度な女性人材育成の拠点形成に向けて」が開かれ、各界で活躍するOGが自身の経験に基づいてパネルディスカッションを展開しました。時に厳しくも同窓を鼓舞するOGの提言は、会場内に熱いメッセージとして届きました。

閉会后、生協食堂を中心に開催された大懇親会も大いに盛り上がり、1世紀の歴史を振り返るとともに、あらたなる門出を祝うにふさわしい盛大な会となりました。



学長式辞



学生リリーススピーチ

◆創立百周年記念式典・祝賀会(奈良ホテル)

5月16日、奈良ホテルで創立百周年記念式典および祝賀会を開催しました。銭谷眞美文部科学事務次官をはじめ、板東久美子内閣府男女共同参画局長、近隣の国公私立大学長、県内外政財界関係者、そして卒業生、歴代名誉教授及び大学関係者など約200名の方々にご出席くださいました。式典では、本学学生サークル「箏曲部飛鳥会」による琴の演奏、「音楽部」による本学の前身・奈良女子高等師範学校校歌の斉唱に続き、野口誠之学長が式辞を述べられました。式辞の中で野口学長は、本学がこれまで果たしてきた女性人材育成拠点としての役割の大きさを強調するとともに、本学のさらなる成長・発展を目指すべく、強い決意を表明されました。式典の後、開催された祝賀会では多くの卒業生も交え、終始和やかなムードで歓談が繰り広げられました。



奈良女高師校歌斉唱



祝賀会の様子

◆清酒「奈良の八重桜」の開発

創立百周年記念に華を添えようと、本学、奈良県と奈良市内の酒造会社である今西清兵衛商店が、小倉百人一首にも詠まれた県花「ナラノヤエザクラ」（本学学章デザインの一部でもあります）の花びらから分離・培養した酵母を使った清酒を開発しました。天然の花から清酒酵母を探し当てるのは非常に難しく、研究を重ね、発案から三年を経過したのちに商品化への運びとなりました。

フルーティーで、白ワインに似た味わいがあり、冷やすと美味しいお酒に仕上がっています。



清酒「奈良の八重桜」

韓国テレビドラマの撮影が行われました!!

5月から日本でもWOWOWで放送が始まった韓国テレビドラマ「スターの恋人」。そのドラマ撮影が、昨年10月中旬に計7日間の日程で、本学正門付近や記念館、中庭を中心に行われました。ドラマは、韓国の有名俳優で日本でも人気のチェ・ジウやユ・ジテが主演するラブストーリーで、本学記念館はドラマの中で非常に重要な舞台となっています。



撮影の様子(記念館前)

韓国・日本のみならず、アジア各国での放送も予定されており、今回の撮影協力は、本学の魅力をアピールするよい機会となりました。県が作成した『「スターの恋人」ロケ地マップ』に、記念館が紹介されています。(県の観光案内所や東京・日本橋の情報発信拠点「奈良まほろば館」などで無料配布。県国際観光課のホームページからもダウンロードできます。)

ひな人形展



記念館2階講堂

旧暦の桃の節句に合わせたひな人形展が4月13日(月)～19日(日)、記念館で行われました。正面壇上の雛飾りのほか、雛道具、市松人形などが展示され、多くの来館者でにぎわいました。

NHK ラジオ収録

4月20日(月)、NHK「ここはふるさと旅するラジオ」の収録が記念館前で行われました。多くの教職員・学生らが見守る中、本学開発商品である「奈良漬アイス」や、清酒「奈良の八重桜」(前頁掲載)の紹介がなされました。



奈良漬アイスを紹介する本学大学院生(右)

「奈良漬アイス」は奈良の伝統ある食材を使って地域活性に貢献しようとする「奈良の食プロジェクト」の一環として、3年前に商品開発が始まりました。スイーツに合う奈良漬を見つけるのは難しく、また、調理法は試行錯誤を重ねた後に、一度茹でた奈良漬を使用することになりました。そうすることで、奈良漬独自の風味と歯ごたえを残すことができました。ほのかに香る奈良漬の香りとシャキシャキとした食感が好評です。ぜひ一度ご賞味ください。



インタビューに応じた本学教職員など

公開講座のご案内

すべて無料です。

申込方法等詳細はホームページをご覧ください。

(http://koto.nara-wu.ac.jp/lle/info4.html)

■講座名

萬葉歌を遡る「大伴家持の七夕歌」「イスケヨリヒメと百合」
 リスク社会の歩き方～社会保障政策と刑事裁判・裁判員制度を学ぶ～
 遺伝子解析の方法を体験しよう
 社会の中の数学
 金融に関する「気をつけて欲しいこと 役立つ情報」
 ～金融犯罪被害にあわないために、金融資産を守るために～
 波の物理と粒子の物理
 薬食同源：本草学から機能性食品の開発へ
 中世の奈良(仮題)
 女子大学と女性論
 「女子大生がラブホテルを研究すること」
 「美人論」その後」

■開催日時

7月11日(土) 13時30分～16時
 7月25日(土) 13時～17時
 8月4日(火) 9時～17時
 8月25日(火) 10時～15時
 9月5日(土) 10時～12時
 9月12日(土) 13時～16時
 9月19日(土) 10時～16時
 10月30日(金) 16時～18時
 12月12日(土) 14時～17時

■受講対象

一般 50人
 一般・教員 25人
 教員 10人
 一般・教員・高校生 60人
 一般 100人
 一般・教員 50人
 一般 50人
 一般 50人
 一般 200人

国立大学として全国初!!

自動販売機型募金箱「ハートフルベンダー」を設置しました

同販売機は、県共同募金会が特定非営利活動法人ハートフル福祉募金とともに設置を推進しているもので、飲料水を購入する際に募金ボタンを押せば、釣り銭から自動的に募金できる仕組みとなっています。この春、国立大学として初めて奈良女子大学に設置され、県共同募金会から野口副学長と、設置に尽力した本学同窓会組織の佐保会に感謝状が贈られました。



ハートフルベンダー

平成21年春の記念館一般公開



①



②



③

①記念館(正面)
 ②百年ピアノの演奏を楽しむ来館者
 ③展示室内の様子

外壁塗装工事を終え、美しい姿によみがえった記念館で、4月29日(水)～5月6日(水)、春の記念館一般公開が開催されました。記念館の一般公開は、重要文化財に対する理解と認識を得るとともに、貴重な資料等を展示・公開することにより、地域文化の発展・向上に寄与することを目的としています。今回の特別展示は、「正倉院模造宝物展」に併せて、大学創立百周年を記念した、学部ごとの『「奈良女子大学百年の歩み」特別展示』を実施しました。前者では、「鳥毛立女模写屏風」が初公開され、後者では各学部が生んだ特筆すべき人々に関する展示、研究内容の紹介などが行われました。期間中、約1,700人にのぼる入館者があり、貴重な展示品の数々を熱心に見入る姿が印象的でした。

2階講堂スペースでは、本学の前身である奈良女子高等師範学校が約100年前に購入した国産最古級のグランドピアノ、通称「百年ピアノ」での演奏を楽しむ来館者も多く、時折、やわらかな音色が館内に響き渡りました。

未来の科学者の登竜門である JSEC (高校生『科学技術』チャレンジ) で附属中等教育学校生徒がダブル受賞!!

昨年12月、東京の日本科学未来館で開催された JSEC2008 において、全国 75 校・166 研究の応募の中から、附属中等教育学校サイエンス研究会の生徒 2 名がダブル受賞を成し遂げました。

- 科学技術振興機構賞 西田 惇君
「筋電位計測システムの開発とその応用」
- アジレント・テクノロジー賞 林 由佳里 さん
「シカのフンを用いた除草剤の開発」



林さん(左)と西田君(右)

「まほろば・けいはんな科学ネットワーク」の構築に係る企画提案が、独立行政法人科学技術振興機構 (JST) による平成 21 年度 地域の科学舎推進事業「地域ネットワーク支援」に採択されました!!

本学はこれまで、奈良県で唯一の理学部を有する大学として、「青少年のための科学の祭典奈良大会」を奈良教育大学、奈良工業高等専門学校と共同して主催してきたほか、「サイエンス・オープンラボ」(理学部共通科目) や数学のもつ面白さを伝える「カフェマテマチカ」など、地域への科学普及活動に積極的に取り組んできました。

一方、本学近くに位置するけいはんな学研都市においても、様々な先端的研究機関が、出前授業、施設公開やフォーラムの開催などを通して「研究機関」と「地域市民」との交流を促進する活動を展開しており、本学はこれらの機関との連携も図ってきました。本事業、「まほろば・けいはんな科学ネットワーク」は、こうした研究機関や近隣自治体との連携をさらに強化することで、それぞれの特色を活かした地域への科学普及活動の広がりを実現するとともに、新たな活動の展開を目指しています。



小学生向け講座 (数学教室)

大学ラウンジ完成

文学部南棟1階に、待望の大学ラウンジが完成しました。天井面には可愛い桜の花びらがかたどられ、また入口自動扉にも桜模様を見ることができます。実際使用できるのはまだ先ですが、構内の癒しの空間となることが期待されます。



大学ラウンジ外観

平成 21 年度役職員紹介

●役員 (7名)

- 学長 野口 誠之
- 理事 (企画・研究担当)・副学長 佐久間 春夫
- 理事 (教育・学生支援担当)・副学長 野口 哲子
- 理事 (管理運営担当)・事務局長 吉野 正巳
- 理事 (非常勤) 本田 元子
- 監事 岡 秀松 氏
- 監事 株式会社マーケティングダイナミックス研究所代表取締役 上野 祐子 氏

●経営協議会委員 (10名)

- 学長 野口 誠之
- 理事 佐久間 春夫
- 理事 野口 哲子
- 理事 吉野 正巳
- 理事 本田 元子
- 理事 河井 規子 氏
- 理事 (財)日本調停協会連合会参与 志水 義文 氏
- 理事 近畿日本鉄道株式会社相談役 田代 和 氏
- 理事 (前京都市立芸術大学学長) 中西 進 氏
- 理事 (奈良県立万葉文化館長) 鷺塚 泰光 氏
- 理事 (元独立行政法人国立博物館理事) 松生 勝
- 理事 (元奈良国立博物館長)

●教育研究評議会評議員 (18名)

- 学長 野口 誠之
- 理事 佐久間 春夫
- 理事 野口 哲子
- 理事 吉野 正巳
- 理事 出田 和久
- 文学部長 塚原 敬一
- 理学部長 清水 哲郎
- 生活環境学部長 岩淵 修一
- 大学院人間文化研究科長 富崎 松代
- 附属図書館長 中島 道男
- 附属小学校長 小路田 泰直
- 文学部教授 小野 博司
- 文学部教授 三野 正介
- 文学部教授 角田 秀一郎
- 理学部教授 今岡 春樹
- 生活環境学部教授 生活環境学部教授 小城 勝相
- 生活環境学部教授 今井 範子
- 理学部教授 棚瀬 知明

ランチタイムコンサート

本学では、平日昼間でのランチタイムコンサート (30分間) を記念館で開催しています。第31回目にあたる7月16日(木)に、小田切美穂さんによるピアノ演奏を予定しています。是非ご来館ください。



5月の様子

出版物のご案内

<研究紹介集・2008 - 2009 >

本学教員の研究活動の概要が分かりやすく記載されています。ご希望の方には、郵送料のみで送付させていただきますので、社会連携センターまで申し出ください。



<地域貢献事業実施報告書>

平成15年度以降、本学はさまざまな地域貢献特別支援事業を展開してきました。このたび平成20年度事業の概要と成果を取りまとめた「平成20年度 奈良女子大学 地域貢献事業実施報告書」を刊行しました。



<大学的奈良ガイド-こだわりの歩き方>

県の風土や文化財、生活などを専門的視点から紹介した観光ガイドブックです。本学文学部人文社会科学の教員らが中心となって出版しました。



<古代服飾の諸相>

21世紀 COE プログラムの研究助成を受けて、「奈良女子大学古代服飾研究会」のメンバーが出版しました。奈良時代の服飾文化について多角的に考察しています。



平成 21 年春の叙勲受章者 (本学関係者3名)

- <旭日大綬章> 本学経営協議会委員 田代 和 氏
- <瑞宝重光章> 元本学学長 丹羽 雅子 氏
- <瑞宝中綬章> 本学名誉教授 植田 勝己 氏

平成 21 年 3 月 31 日付退職教職員 (定年退職のみ)

- <文学部> 八木 秀夫・川上 範夫 <附属小学校> 都留 進
- <理学部> 阿部 百合子 <事務局> 河井 富博
- <生活環境学部> 諸岡 英雄 上村 清治
- <大学院人間文化研究科> 笹松 保
- 松生 勝

国際交流往来

☆2008年11月4日(火)～11月16日(日)、英国・レスター大学から Joanne Shattock 教授が来学され、学内外で講演会を実施しました。また、本学大学院生のために、人間文化研究科横山教授の下で、2日間に渡って研究セミナーを実施していただきました。

★そして理学部荒木教授が、2008年12月3日(水)～12月19日(金)、レスター大学を訪問し、現在留学中の学生の様子を確認するとともに、より一層密接な研究交流・学生交流の実現に向けて生物学各研究室の教員らと話し合いました。2009年夏季休業期間中に、相互の大学院生の受入・派遣を実施する予定です。また、ドイツのダルムシュタット大学へ出向き、教育・研究の連携等を協議しました。

☆昨年に引き続き、首都経済貿易大学労働経済学院<中国>一行24名が、2009年4月7日(火)、本学を訪問しました。小山国際交流センター長から本学と本学をとりまく奈良の歴史や風物について説明を受けた後、構内を見学し、桜が満開の季節に訪れた学生は、情緒豊かなキャンパスを満喫していました。

☆2009年4月9日(木)、ベトナム国家大学ハノイ 外国語大学の Ngo Minh Thuy 東洋言語・文化学部長が学長を表敬訪問しました。Thuy 先生から本学への希望を具体的にお話いただき、今後、両大学が協働で行う教育プログラムなどを創出していくことを確認し合いました。



王氏と佐久間副学長

王氏は、佐久間教授の下で指導を受け、現在中国同済大学体育学部准教授として活躍しています。

★そして佐久間副学長と小山国際交流センター長が、2009年5月4日(月)～7日(木)に同済大学を訪問し、交流協定の可能性を確認してきました。体育学部では佐久間副学長が「スポーツ科学の可能性」と題してセミナーを開催し、本学の研究教育の水準をアピールしました。今後、同済大学体育学部の求めるより高次な学位取得に向けて、新たな協力関係の展開が期待されています。

★小山国際交流センター長は、2008年10月12日(日)～18日(土)、ベトナムハノイを訪問しました。日越人材開発協力センター(VJCC)と本学卒業生の Manh Thi Thanh Nga さんの協力のもと、4日間で6つの大学と日本語学校1校を回るというハードスケジュールをこなし、現地の日本留学熱を実感しました。

また、2008年11月16日(日)～19日(水)、国際交流協定締結に向けて協議するため、中国大連理工大学を訪問しました。☆本学創立百周年記念式典への出席のため、梨花女子大学副



蘇州大学一行におねだり

の深い先生方との交流会も実施しました。見学の際には、母国からのお客様のために、留学生らが通訳などで協力してくれました。

☆2009年2月2日(月)～2月16日(月)、国際交流センターの「ショートリターン・プログラム」で2007年に本学で博士の学位を取得した王国譜氏を招聘し、研究交流を行いました。

☆2009年2月2日(月)～2月16日(月)、国際交流センターの「ショートリターン・プログラム」で2007年に本学で博士の学位を取得した王国譜氏を招聘し、研究交流を行いました。

☆2009年2月2日(月)～2月16日(月)、国際交流センターの「ショートリターン・プログラム」で2007年に本学で博士の学位を取得した王国譜氏を招聘し、研究交流を行いました。

☆2009年2月2日(月)～2月16日(月)、国際交流センターの「ショートリターン・プログラム」で2007年に本学で博士の学位を取得した王国譜氏を招聘し、研究交流を行いました。



歓迎夕食会で

国際交流協定締結

～ベトナム国家大学ハノイ 外国語大学と交流協定を締結～

2009年3月12日付けで、大学間交流協定を締結しました。本協定には、授業料不徴収による短期学生交流の合意書も添付され、両大学間の教育・研究交流の基本的枠組みが整備されました。

2008年度アフガニスタン青年研修<女子教員>を実施

五女子大学コンソーシアム(お茶の水女子大学、津田塾大学、東京女子大学、奈良女子大学、日本女子大学)とJICA(国際協力機構)との共催で、2009年1月13日(火)～30日(金)に研修が行われ、本学では、そのうちの1月23日(金)、24日(土)の両日、13名の研修員を迎え、大学キャンパス、附属小学校、東大寺の三箇所で開催しました。



本学記念館講堂にて

今回参加した研修員は、中学校や高等学校で教鞭をとっている若手教員が中心でした。伊達教授による「食生活と健康」



実習中



附属小学校にて

に関する講義と実習のほか、附属小学校では育友会会長から、学校と家庭、学校と地域の連携が重要であることの説明がありました。

学長主催修了等留学生懇談会

2009年2月19日(木)、学長主催の卒業・修了外国人留学生懇談会が実施されました。三月に卒業・修了予定の留学生や自国に戻る交換留学生を囲んで、和やかに歓談が行われました。久米前学長から一人一人に記念品が手渡され、学生からも返礼の言葉とプレゼントがありました。一言ずつ感謝の言葉と今後の抱負を述べる留学生の顔は、みな様に本学の卒業生となる誇りに輝いていました。



留学生に記念品を贈呈

留学生からの贈り物

本学に国際課が置かれてから長く国際交流の担い手として勤められた河井氏が、3月末をもって定年を迎えられるにあたり、日頃より何か恩返しをと思っていた学生・教職員が集い、感謝の気持ちをサプライズパーティーという形で実現しました。留学生らの熱い思いとスタッフの心がひとつになり、感動の瞬間を演出することが出来ました。



留学生から歌のプレゼント

学生らの歌声は、母国から遠く離れたこの地において家族を思う気持ちと、新たな出会いに育まれた第2のふるさとへの思いとして、スタッフ一同の心に深く響き渡りました。

編集・発行 奈良女子大学広報企画室

編集責任者 佐久間春夫(副学長)

連絡先 奈良女子大学総務・企画課

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

Tel 0742 (20) 3220 Fax 0742 (20) 3205

E-mail somu02@jimu.nara-wu.ac.jp

